

町政執行方針（要旨）



妹背牛町長
田中 一典

町政執行方針の全文はこちら



はじめに

国の令和6年度予算は、昨年度に次いで過去2番目に大きい112兆5,717億円を計上。特に、令和6年度地方財政対策では、自治体に交付される地方交付税が、出口ベースで1.7%増の18.7兆円と6年連続で増額となりました。

この地方交付税が、歳入全体の多くを占める本町にとっては、財政運営に直接関係することから、これまで以上に注視すべきところがあります。

本町の令和6年度一般会計予算では、令和2年度からスタートした「第9次妹背牛町総合振興計画」における「小さなまちから 広がるつながり 暮らしやすいまちもせうし」をまちづくりのテーマとして、移住定住対策や子育て支援に重点を置いた施策を中心に、新たな時代に向けて将来を見据えた取り組みを積極的に進めてまいります。

町民の皆様の暮らしを守ることを最優先に、私自身が先頭に立ち、山積する課題に全力で取り組みながら町政執行にあたっていく決意であります。

～活力と賑わいあふれる産業のまちづくり～

農業振興

良質・良食味米の安定生産

全農家を対象とした低コスト生産に向けた土壌診断に対する助成を行い、適正施肥による品質・収量の向上と施肥設計の見直しによる肥料コストの低減に資する取組を進めてまいります。

また、米穀乾燥調製貯蔵施設は、色彩選別機増設等の効果で米品質の均一化が図られ、高い評価を得ていますが、その他の機械の老朽化により集荷体制に支障を及ぼすことが懸念されており、このため、乾燥機の燃焼バーナーの機能増強を行い、体制強化に努めてまいります。

農作業の省力・省人化の推進

G N S S研究会では、町の助成を受けRTK・GPS自動操舵システムの普及リース事業を展開し、農家の約半数の方が導入され、会員数も80人となっております。

今後も研究会を通して、省力・省人化に向けた有効な技術、ドローンや人工衛星を使用した生育分析による可変施肥やピンポイント施肥の有効性などの検証を進めたいと考えています。

活力ある農村づくり及び担い手の育成・確保

北空知農業後継者対策育成支援協議会による若手農業者の研修等への参加促進、北海道農業担い手育成センターによる新規就農者フェアへの参加を考慮しております。

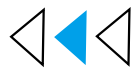
また、新たに新規就農経営安定助成金を創設し、新規就農者の就農時の経営安定を図るとともに、将来の地域農業の担い手を確保するよう努めてまいります。

有害鳥獣対策

エゾシカ、カラス、アライグマなどによる農作物被害等を防止するため、今後も関係機関・団体等と連携しながら駆除体制の強化に努めます。

また、近年、熊の出没が相次いでおり、警察など関係機関と連携を図り、農家FAXや看板等で周知し、被害防止に向けて取り組むとともに、新たに猟銃免許等取得更新費用の助成を創設し、資格の取得や更新費用の一部助成を行い、有害鳥獣駆除に欠かせない狩猟者の育成確保に努めてまいります。

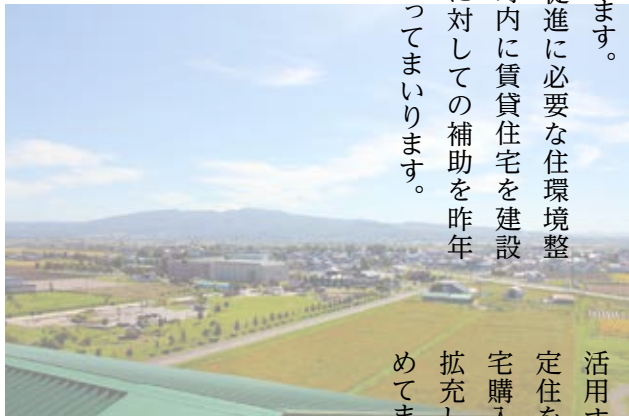
移住定住の促進



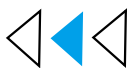
移住定住対策として、土地購入・住宅新築・中古住宅購入に係る支援事業、及び町外からの転入者への引越し助成や民間賃貸住宅入居者への家賃助成を昨年に引き続き行います。

住宅新築・中古住宅の購入に係る助成は資材費等の高騰による影響もあることから助成額を増額するとともに、中古住宅につきましては、助成要件の拡充として賃貸物件、民泊等で活用する場合も助成の対象とします。

移住定住促進に必要な住環境整備として、町内に賃貸住宅を建設する事業者に対しての補助を昨年に引き続き行ってまいります。



空き家対策



令和5年度に「空き家等対策計画」を改定し、空き家等の実態調査を行うとともに、管理・利活用に関する事項を定めています。

しかし、急速に進む人口減少に伴い、年々空き家が増加している状況にあります。

活用が困難な空き家の除却に対しては、住宅等撤去費助成事業を継続し、活用が可能な空き家は地域資源として利活用することにより、移住・定住を促進するため、中古住宅購入支援事業の助成内容を拡充し、空き家等の抑制に努めてまいります。



商工業の振興



本町における商工業につきましては、人口減少による購買力の低下などで苦しい経営状況が続いており、引き続き商工振興を図る取り組みが重要であります。

資金融資保証料の補給支援、小売店舗等設備支援事業を継続し、商工会事業の住宅等リフォーム助成事業、お買い物おもてなしタクシー助成事業、モスピーカードのポイント贈呈支援、さらには新規起業（創業）への支援についても継続してまいります。

今後商工会との連携のもと、地域活性化に結びつく事業展開に対し、町としても積極的に支援をしております。

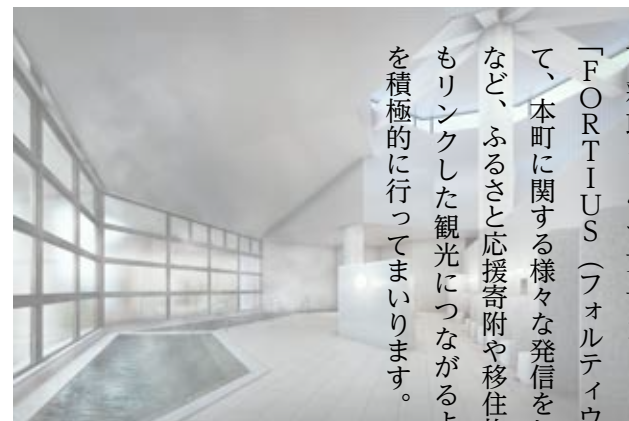
観光の振興



妹背牛温泉ペルにつきましては、4月のリニューアルオープンにはサウナを充実し、左右で趣の異なる浴室を男女入替制にて行い、皆様に楽しんでいただきたいと考えており、町内外の方々に愛される温泉をめざし運営してまいります。

遊水公園うらら、カーリングホール、妹背牛温泉ペルを観光資源の核とした中で、本町の魅力を発信し、観光客や交流人口の増加につなげていきたいと考えております。

また、本町の応援大使であります山下彩耶さんや女子カーリングチーム「FORTIUS（フォルティウス）」を通して、本町に関する様々な発信をしていただくなど、ふるさと応援寄附や移住施策のPRともリンクした観光につながるような取り組みを積極的に行ってまいります。



～安心して暮らせる福祉と健康のまちづくり～

高 齢者福祉、介護サービスの充実

介護予防・総合事業の充実や地域の包括的なケアシステムの構築に向けて、「支える側」「支えられる側」という関係を越えた「重層的支援体制整備事業」が令和3年度よりスタートしており、本年もさらなる包括的相談支援体制の構築を図ってまいります。

また、交通費助成事業や外出支援サービス事業、配食サービス事業、水道料金及び灯油等の暖房用燃料費の一部助成と緊急通報システムの設置も継続。さらにペパル温泉のリニューアルに伴い、70歳以上を対象とした入館料助成事業を新たに実施してまいります。

児 童福祉、子育て支援の充実

少子化が進む中、妊娠を希望する方が安心して不妊治療を受けられるよう、経済的支援として、令和5年度より不妊治療費助成の拡充を図り、健康保険適用外となっている先進医療の助成を開始したところです。

令和6年度からは「ようこそ赤ちゃん事業」として、新たに妊娠判定のための初回産科受診費用の助成を開始するほか、妊娠・出産および産後健診のための交通費の助成を拡充いたします。これに伴い、妊娠・出産に係る助成金、お祝い金の申請窓口を健康福祉課に一本化し、対象となる方の利便性向上を図ります。

健 康づくり・医療の充実

町民一人一人が若いうちから自分の体の状態を知り、いきいきと暮らすことができるよう、食生活、運動、禁煙、こころの健康づくり等の分野ごとに対策に取り組んでまいります。

さらに、近年、社会経済状況の格差が健康をも左右してしまう「健康格差」の問題や、孤独や孤立に由来する健康問題が地域で深刻化しており、全国的には自殺死亡率も増加しています。

町では生き心地の良い妹背牛町をめざして、今後も包括的な支援を各課連携のもと推進してまいります。

地 域福祉、心身障がい者福祉の充実

令和5年度に策定した「地域福祉計画」をはじめ、社会福祉協議会の「地域福祉実践計画」や各福祉計画と整合性を図り、地域福祉の推進に努めてまいります。

また、就労継続支援事業所の「アグリーン妹背牛」と、相談支援事業所の「ジェミニ」さらにはグループホーム「夢の杜」とも連携し、障がいへの理解と啓発に取り組み、障がい者の方が安心して暮らせるまちづくりをめざすとともに、地域社会で自立した生活ができるよう、各種福祉サービスの適切な提供と社会参加の促進に努めてまいります。

国 民健康保険事業について

平成30年からスタートした都道府県単位化により、医療費の変動による急激な保険料の増減は緩和されることになりましたが、統一保険料に向けた応能・応益賦課割合の見直しは、今後の課題でもあります。令和4年度に策定した見直し方針に基づき、令和12年度に向け段階的・計画的に取り組みを進めてまいります。

令和6年度の国民健康保険料率については、所得などの確定後に国民健康保険運営協議会でご審議いただき、改めてご提案申し上げたいと考えております。

介 護保険事業について

本年度から、3年（令和6～8年度）を計画期間とした「第9次介護保険事業計画」がスタートいたします。

今後も住み慣れた妹背牛町で、いつまでも健康的で自立した生活を送ることができるよう、支え合う地域づくり、介護予防と生活支援の推進、地域包括ケア体制の確保、安全・安心な環境づくり、認知症施策の推進を基本方針に取り組みを進めてまいります。

なお、介護保険料については、基準額を「第8次介護保険事業計画」と同額に据え置く予定としています。

環境衛生

本町では、資源リサイクルによる循環型社会を構築するため、ゴミの分別・資源化に取り組んでいます。限りある資源の有効活用を図り、生活環境の保全及び公衆衛生の向上に努めてまいります。

また、パソコンのイベント回収や乾電池の拠点回収、町内会等が実施する衛生週間活動の無料ごみ回収等を実施。地球温暖化対策として「妹背牛町ゼロカーボンシティ宣言」を表明しており、省エネルギー化や再生可能エネルギー設備の導入など様々な取り組みを進めてまいります。

上下水道等の充実

簡易水道事業は、生活基盤近代化事業を利用した配水池の耐震化事業を令和5年度から引き続き取り組み、本年度から2年をかけて耐震化工事に着手します。

農業集落排水事業は、安全で快適な下水道サービスを持続的・安定的に供給するため、経営改善に努めるとともに中長期的な更新計画に基づき、適正な時期の更新を行ってまいります。個別排水処理施設については、今後も農業用水域の保全に努め、健全な事業運営を行ってまいります。

住宅施策

現在管理しております町営住宅は、公営住宅164戸、特定公共賃貸住宅4戸、地域優良賃貸住宅2戸、単身勤労者住宅8戸、勤労者住宅4戸の計182戸となっております。

平成28年度に策定しました公営住宅等長寿命化計画に基づき、現在は稲穂団地の建替え事業を進めており、本年度につきましては稲穂団地F棟の実設計画を予定しているところであります。

今後も入居需要を見極めつつ、住宅使用料の収納率向上に努めてまいります。

消防・救急の充実

深川市・妹背牛町・秩父別町の1市2町における119番通報受付業務の一元化と合わせて導入した「高機能消防指令システム」及び「統合型位置情報通知システム」により、通報者の位置情報や災害地点を速やかに特定し、現場への到着時間短縮につながっております。

本年度は、経年劣化により更新が必要な「消防ポンプ自動車」に代わり、小型動力ポンプを積載した「多目的積載車」を導入するなど、装備の充実に努めてまいります。

防災・治水の充実

令和6年度は、町内全域を対象とした防災行政無線同報系システムの導入により、希望する各戸に戸別受信機を配置、あわせてスマートフォン等への情報配信手段の拡充を行い、緊急時における即時情報の発信体制を整備し、引き続き住民参加型の防災訓練の実施などに加え、情報伝達訓練により、さらなるまちの防災体制の充実に努めてまいります。

治水対策は、芽生川と6丁目半集水路の浚渫工事を実施し、普通河川の計画的な維持管理に努めてまいります。

交通安全・防犯活動の充実

本町の交通事故死ゼロの継続日数は、昨年9月に「2,000日」を達成いたしました。「ながら運転の防止」・「飲酒運転根絶」に向けた啓発事業を推進するなど、引き続き交通事故死ゼロの町をめざします。

防犯活動につきましては、特に高齢者を標的とした特殊詐欺での被害が全国的に後をたたず、町内では予兆案件が発生しております。

新年度も、住民を事故や犯罪から守るため、関係機関・団体との連携を強化し、「安全で安心な地域づくり」に努めてまいります。

道路、雪対策の充実

町道の整備につきましては、今後も計画的な町道の機能回復を図るとともに、道路交通網の適正な維持管理と維持補修に努めてまいります。

また、橋梁につきましては、桜川橋、川1線橋、中学校橋の3橋の修繕を行います。予防的な修繕により橋梁の長寿命化を図りつつ、維持管理を適正に進めてまいります。

冬期間の除排雪対策については、生活道路の安全確保や緊急車両の通行確保に努めるなど、今後も効率的な除排雪が実施されるよう業務を遂行してまいります。